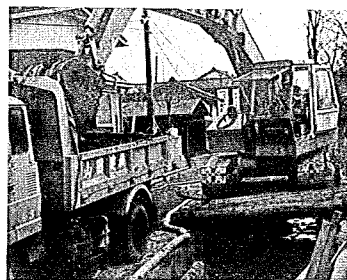


健康なくらしめざして

全国下水道促進デー される快適な生活環境



本格的に工事の進む市の下水道建設

下水道建設、中部地域から本格的に

下水道ができると、そこに住む人の平均寿命は三年延びるといわれています。それは、カやハエの発生源がなくなつて、快適な生活環境が保証されるからです。

日本の下水道は、ごく最近になってから、ようやくその必要性が世論の盛り上がりとなって高まってきたもので、それ以前は、東京の三鷹市だけは、一〇〇%の下水道完備が実現しています。

当市の場合、七百五十ヘクタールある市街化区域のうち、本町、善道町、下野野町の中部地域から、やっと本格的にはじまったばかりですが、将来は市街化区域全域に完備するよう計画はすすめていっています。

下水道が建設される地域では、各家のトイレは水洗化され、炊事場も風呂場も、全部下水道に管で結ばれます。そしてこれらの汚水は、一か所に集められ、化学処理がほどこされ、きれいな水となって川に放流されます。

いっぽう雨水は、普通の場合、地先の道路側溝から雨水専用管に流れ込み、川に放流されますが、一部の地域では、農業用の排水路に流れ込むよう計画されているところもありました。なお、雨水の全体計画は、次のようになってい

中部地区

道町・下野野町：下野野町内ではポンプ排水
東部地区（新町・日宝町・金沢町）：新町最下流部でポンプ排水、ただし日宝町は直接ポンプ排水
北部地区（北上）：北上地内でポンプ排水
西部地区（山谷町・南町・新栄町）：北上地区と合併処理
南部地区（秋葉町・田家・中沢町・吉岡町）：新津郷土地改良区の排水路に流下
草谷地区（草水町・流谷町・流谷本町）：数か所に分けて現在の能代川に自然排水
古津地区（古津・朝日・中村・西島）：自然排水に分けて東大通川に自然排水
秋川地区（中野・車場・秋島・田島の各一部）：新津郷土地改良区の排水路に流下

中部地区

終末処理場の完成待ってトイレは水洗化

当市の下水道は、分流水式で工事が進められています。この分流水式というのは、最初から雨水と汚水を別々の管の中に流し込んで、雨水はそのまま川へ、汚水は終末処理場へ送り、化学的な処理によってきれいな水にする方法をとっているものです。

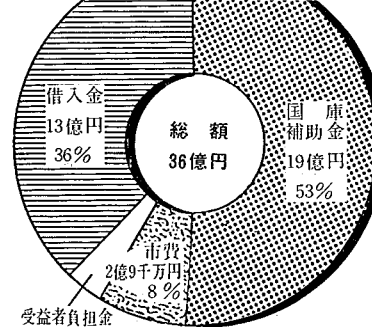
昭和四十年から工事が続けられていた中部地域では、雨水幹線の完成でいまでは大部分のたん水害は解消され、少くくらの雨でも安心できるようになりました。また、汚水も終末処理場の完成を待つて、トイレの水洗化などが実現されるものです。ですが、この終末処理場は、はじめ五十一年度完成を目ざして計画されてきたのですが、国が公共事業への投資引き締めなど、打ち出したため、一二年ばかり工事が遅れるのではな

**下水道をつくるには
ほう大なお金が……**

下水道をつくるには、いったいのくらのお金がかかるので、今ですべての中部地区を例にとりてみると、昭和四十七年度に試算した時の総工事費用は、約二十三億四千万円の見込みでしたが、現在の試算額からいくと、建設諸材料の高値などため、およそ三十六億四千万円の見込みと見えてきます。

これを三・三平方メートル（一坪）当たりの工事費用に換算してみますと、約一万三千円、居住予定人口の一人当たりでは四十万円といふ、それほど大抵出てきます。

中部地域の下水道を建設するための財源



下水道完備の

9月10日は 事業推進で約束

主な財源は補助金と借入金

下水道をつくるための財源は、国からの補助金、国や県などからの借入金、受益者負担金、市費などから成り立っています。

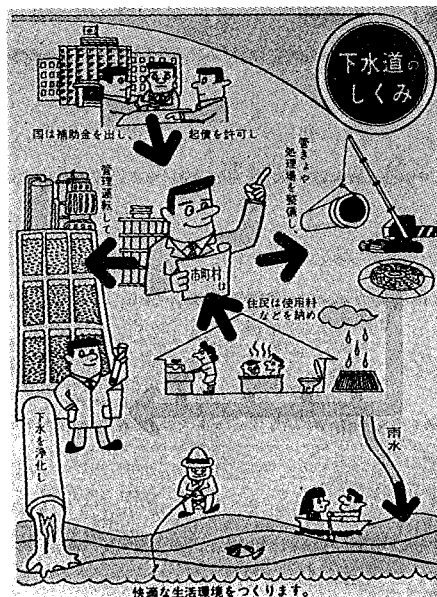
ちよつと前頁のグラフを見て下さい。これは、中部地区の建設予定経費です。およそ半分ほど占める補助金は、管渠やポンプ場などに十分の六、処理場には三分の二が補助されることになっています。

でも口径の小さい管とか、処理場の環境整備費などは補助対象とはなりませんので、単独事業として借入金（起債）を主な財源として工事の行われるものもあります。

借入金は、補助対象になっ

た残りの金の四分の三と、単独事業は十分の九まで借りることが出来ます。このお金は五年据え置きの三十年年賦に返すという有利な条件です。その一部は、国でも交付税でみてくれることになっています。

受益者負担金は、下水道の整備が今のところ市内の一部に限られるため、この恩恵を受ける地区の土地所有者のみならず、建設費の一部を負担していただくというもので、当市では、昨年度から採用しています。具体的には、管渠工事費の五分の一を、五年間土地の面積割りで納めていただくことになっており、この中部地区の場合、一平方メートル当たり百七十七円で計算されています。



雨水マスにごみなど詰ったら取り除いて

下水道のできた道路の両側には「雨水マス」が設けられています。

この雨水マスは、下水道の入口ですから、ここが詰まると、道路付近の水があふれてしまいます。いま設けられている雨水マスの数は、約二百くらいありますが、とても管理がいき届ける数ではありません。仮りにごみなどのため、雨水マスの入口が詰まると、どうにもしようがないというのが現状です。

市民のみなさんからも、こ

の雨水マスには十分注意して、ごみなどがあつたら早速取り除くなどして協力ください。下水道が威力を発揮する前提は、雨水マスが正常に作用するかにかかっています。

**計画ある流域下水道
広域的に幹線を建設**

最近「流域下水道」という言葉が新聞などでよくみられるようになりました。

この流域下水道は、一つの河川の流域にある市町村を一つのものとして、下水道整備を進めようとする広域的な考えのものです。つまり市町村と市町村を結ぶ汚水の幹線と、



基礎コンクリートも終わって延長される汚水管